

ブルー・アイランド氏が やりたかったこと

第9回 プールの監視員

夏が来るのが恐ろしかった。幼い頃は食が細くて
(貧乏のせいで)食生活のゆとりがなかったため、
特に暑くなるたびに食欲が落ち、ガリガリになるのだった。
しかし何よりも嫌だったのは、プールに入ることを強制されることだった。

いや正確には小学校3年生までは入ることを百体は涼しいし、嫌ではなかった。
担任の女性の先生が泳げない方で、「さあ皆さん、水遊びをしましょ」程度の運動だったのだが、
4年生からの担任の男性の先生は突然「顔を水に漬ける」と言った。B(ブルー・アイランド=青島)は
それまで人間というのは陸上で暮らす哺乳類であり、水によって呼吸を阻害されることなど
考えもしなかったから、もちろん最初は拒否した。しかし当時の教師はよく撲り、
顔を漬けようとしないうちにもは次々と撲られていったので、仕方なく漬けたところ、
いつまでたっても顔を上げると言わない。上げるや撲られるので我慢していると言いつつ、
鼻から息を吸ってしまった。その痛さたるや筆舌に尽くし難いもので、
未だに鼻からの胃力メラも拒否しているほどだ。
即座に教室に逃げ帰って服を着た記憶が、臍ながらにある。
その後、ツベルクリン反応の注射跡をコンパスの針で掻いて腫らませようしたり、
結膜炎になろうと床を拭いた指で目の中をこすったり、義務教育期間は全て見学で通した。
高校では最後の1年間だけプールの授業があったが、欠席した。1/3の欠席までは許されていたのである。
そんな身でプール監視員というのはおこがましいが、これはひとえに、
他人の裸身を公的に観察したいという欲求によるのである。Bの仕事の1つである、
人間の絵を描くという資料ともなる。デッサン教室に通う手もあるにはあるが、
料金がかるのと一つのポーズを一方からしか眺められない、
ドイツのクアハウスでも男女混浴の施設もあるのだが、
眼鏡をかけたまま入るのはどうも気が引けるのだ。
Bが美しいと感じるのは自然のままの
姿であり、
したがって植物でも
盆栽や、人間でも
ボディビルダー
などは嫌悪する。
「見られる」前提
での形態は不自然
なのである。
しかしこれが仕事に
なるのはどうか。
誰かが溺れたら警笛を吹いて知らせるくらい
は何とかなるにしても、
助けに行かねばならぬとしたら、
こちらが事故を起こしてしまふのだから…
愛犬とヘアを組んでみよつかと思つた
こともあるが、なんと飼主に似て、
水は雨でも大嫌いなのである。



写真提供: Gakken Pub

文と絵 青島広志

東京藝術大学講師。オペラや
合唱など作曲した作品は200
を超える。ピアニスト、指揮者
としての活動も40年を超え、
コンサートやイベントもプロ
デュース。「題名のない音楽
会」「世界一受けたい授業」な
どに出演している。

★お知らせ

荻窪センターでは毎月1回、
夜の講座を開講中。9月はモ
ーツァルトの「フィガロの結婚」の
アリアを、10月からは「ヴェルディの
オペラ」を取り上げます。

横浜センターで10月5日(土)11時か
ら公開講座「日本の歌150年を一緒に
」を開く。唱歌からTVホームソングま
で歴史を通して楽しく学ぶ。青島先生
のピアノ伴奏で、テノール歌手の小野
勉さんが歌い、皆さんで歌います。